

中国からの物騒な動画

今年7月、「日本が台湾有事に武力介入すれば中国は日本を核攻撃する」という物騒な動画が、中国の軍事評論家グループ（「六軍翰略」）によって公開された。中国は核の先制不使用を主張してきたが、「日本は例外」とナショナリズムを煽り、200万回以上拡散された。

中国は最近「LOW」(Launch on warning)に言及し始めた。冷戦時、米ソが相互確証破壊戦略を採用していた時の概念で、核攻撃を察知した時点(着弾前)で核ミサイルを発射するものであり、限りなく先制使用に近い。中国は軍拡を続け、今夏には地上発射型弾道ミサイルのサイロが約300基建設中だと明らかにした。今月初め、オースティン米国防長官は、中国は2030年までに核弾頭を約1000発に増勢し、核戦力の3本柱(地上配備、潜水艦発射、戦略爆撃機搭載)強化を目指していると述べた。核に対する抑止力は核であり、通常兵器では成り立たない。日本

核論議タブーにしてはならない

は米国の「核の傘」に依存し、それを前提に非核三原則を国是とする。だが米中の中距離核戦力の均衡は崩れており、果たして抑止力は維持されるのか。非核三原則についても議論すべき時だろう。

人類は核の悲惨さを広島、長崎から学んだ。長崎以降、核は使用されてはいない。事実、核は使用し難い兵器になった。では核は無駄かという残念ながらそうならない。戦略家エドワード・ルトワックは「核兵器は使われない限り有効」と喝破した。威嚇、恫喝には極めて有効で外交力、国防力は格段に向上する。だから核保有国は決して廃棄に依らない。オバマ米大統領(当時)は09年、プラハで演説し「核兵器のない世界の平和と安全を追求する決意」を述べてノーベル平和賞を受賞した。核なき世界は理想である。だが核廃絶を叫び、千羽鶴を折るだけでは実現しない。オバマ

正論



東洋学園大学客員教授
元空将
織田 邦男

氏は在任中、核廃絶への措置がとれず、逆に核は世界に拡散した。核廃絶を叫ぶだけでは

核廃絶には2つの課題がある。一つは、「どっやって」という具象策であり、もう一つは核廃絶までの間、核から「どう守るか」である。ただ核廃絶を叫ぶだけでは無責任すぎる。17年7月、核兵器を違法とする核兵器禁止条約が国連総会で採択され、今年1月に発効した。だが肝心の核保有国は加入していな

い。2つの課題の処方箋もない。岸田文雄外相(当時)は「『核兵器のない世界』に対して現実に資さないのみならず、核保有国と非保有国の対立を深めるという意味で逆効果になりかねない」と条約に反対した。妥当な判断である。軍縮交渉で核戦力を全廃した例がある。1970年代後半、ソ連は中距離核戦力(SS20)を配備した。欧州全域に届くが米国本土には届かない核戦力である。核の不均衡が生じ、欧州各国は「核の傘」に疑念を抱いた。米国は欧州

を守るため、自国を危険に晒してまで核報復してくれるのか。サッチャー英首相、シュミット独首相(当時)は、同等の中距離核戦力(パーシングII及び地上発射巡航ミサイル)の欧州配備を米国に迫った。これが実現するや米ソの軍縮交渉が始まり、87年、中距離核戦力は全廃された。軍縮するためには軍拡して成功した例である。皮肉にも米中の中距離核戦力の不均衡はこれに端を発している。条約の制約を受けない中国は、日本、グアムを射程に収める中距離ミサイルを着々と整備し、今や1250基が配備されている(米議会報告)。憂慮したトランプ政権は中距離核戦力(INF)条約から離脱し、現在、中距離核戦力を再構築中である。

思考停止の「五原則」では3月に米インド太平洋軍司令官は議会に要請書を提出した。中国への抑止は崩れつつあり、中距離ミサイルは第1列島線に配備すべきと。核が加われば非核三原則に抵触する。やがて日米協議が始まるだろうが真摯に向き合う必要がある。事は日本の安全に関わる。これを機に非核三原則も議論すべき時ではないか。非核三原則は米ソの核が均衡していた時、有効であった。米中対立が激化し、核の不均衡が生じている。非核三原則が、日本の防衛に役に立つのか、今一度その意義を冷静に議論すべきである。非核三原則の継続自体が目的であってはならない。核による威嚇、恫喝を無効化し日本に向けられた核戦力をどう廃絶させるのか。欧州で核戦力をもつて核戦力を全廃したように、軍事バランスをとり戻し、平和を確保しつつ米中の核軍縮交渉を開始させる。このために非核三原則が障害であれば見直せばいい。日本はこれまで「核」と言った途端、思考停止してきた。事実上非核三原則は「考えない」「考えさせない」を加えた非核五原則であった。脅威を直視し、核攻撃や核による威嚇、恫喝を抑止するにはどうすればいいか。冷静かつ真剣に議論する時であろう。「過ちを繰り返さない」ためにも核論議をタブーにしてはならない。(おりた くにお)